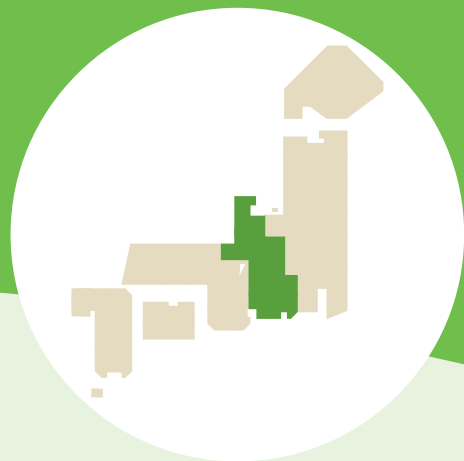


東海・北陸



p.36 富山県

服部一幸さん
卓球



p.37 福井県

小林幹子さん
バウンスポール



p.38 福井県

山内幸枝さん
水泳



p.39 岐阜県

木村静男さん
ソフトボール



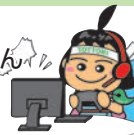
p.40 静岡県

大川久博さん
バウンスポール



p.41 静岡県

北川勝美さん
eスポーツ



p.42 愛知県

水上美保さん
eスポーツ



p.43 三重県

高木由理子さん
太極拳



p.44 三重県

寺嶋哲司さん
サッカー





卓球 キトキト富山 (監督兼選手)

はっとり かず ゆき

服部 一幸さん 71歳 ●参加歴：2回目

先手必勝パターンで金メダルを獲得！

10月19日の総合開会式当日は大雨に見舞われ、入場行進は中止、規模を縮小して体育館にて実施されました。

開会式は倉吉市のエースパック未来中心で行われ、勇壮な和太鼓の歓迎を受け、市長さんのユニークな歓迎の言葉も印象に残りました。2泊目は宿泊施設である望湖楼に入り、夕食後にミーティング(練習整理・相手情報確認)を行いました。

20日の1次リーグは、初戦は鳥取県Cチーム、2戦目は熊本県チームと戦い、いずれも4対1で危なげなく勝利を収めることができました。

2次リーグに入り、レベルの上がる対戦が予想され、全員が気持ちを右手に込め、重ねて、円陣を組みました。選手とベンチの応援が一体化して、静岡市、千葉県ともに3対1で難関の2次リーグを乗り切りました。これで、ベスト8が決まり、決勝トーナメント進出を果たしました。

決勝トーナメントはますます気分高揚！ベテランが勢いをつけ、初出場組が波に乗って思い切りよくプレイする、先手必勝の好循環で準々決勝、準決勝を3対0で乗り切りました。決勝はお隣の新潟県(過去3回優勝の強豪で全国レベルの選手多数)との対戦。今回のチームの特徴である先手必勝パターンで、1番女子で先勝、2番男子はフルセットの末に惜敗、3番ミックスダブルスがコンビ良く相手を圧倒し、4番女子はデュースの熱戦を制し、3対1でついに優勝、日本一を達成！特に2名の女子選手は全勝を成し遂げました。

私は2度目の参加ですが、県外での大会は初めてで、富山県初優勝の場面に「本当なのかな

あ」という気分とともに、「後からじわじわと実感が湧いてくるのかなあ」と不思議な気持ちでした。

富山県チームは過去の大会において、2019年と2022年に準優勝の成績を収めています。今回のチームにはその経験を持つ2人の選手が在籍し、練習方法を工夫していただき、練習パートナーの勧誘や招聘の中心となっていただきました。さらに、レジェンドが体の使い方やラケットスイングのポイントをレクチャー。通常の約2倍の練習量が今回の優勝の伏線となったように思います。

私自身は、週に2回スポーツ少年団を指導し(硬式)、週に1回ラージボール教室で活動を行っています。幼児～ねんりん世代の80代まで幅広い年代で楽しめる生涯スポーツ卓球の普及、地域交流の場の提供など、今回のねんりんピックでの経験を生かしていきたいと思います。



卓球会場前で喜びの優勝ポーズ。(後列左端)



バウンスポール エンゼル 291 (監督兼選手)

こばやし みき こ

小林 幹子さん 72歳 ●参加歴：2回目

次の目標に向かってますます元気

定年退職後、友人に誘われてスポーツ・レクリエーション指導者とレクリエーション・インストラクターの2つの資格を取得しました。

2023年に鳥取県で開催された「バウンスポール体験会」に参加して基礎技術を習い、福井に戻り、福井県レクリエーション協会の皆さんとともに、バウンスポールを普及するための講習会を行いました。そのおかげで、私自身が人に伝えていくためにルールを何度も確認するようになりました。

そして、2024年4月、講習会に参加していた熱意あるスポレク有資格者たちと「エンゼル291(フクイ)」を立ち上げ、月に2回練習するようになりました。「全国レクリエーション大会2024とちぎ」(9月開催)のバウンスポール体験にも参加し、鳥取県の方からアドバイスをいただきました。

その後もねんりんピックとっとり大会まで、月2回の練習を欠かさず、毎回試合形式を取り入れながら力をつけていきました。

楽しみにしていた今大会では緊張していたせいか、普段の力は発揮できませんでしたが、かろうじて優秀賞はいただきました。少し残念な結果ではありましたが、一区切りついたようでホッとしました。

私たちの試合を見ていた鳥取県の方から、ボウリングのような手の振り方がコツだと教えていただきました。また、試合後、ケーブルテレビのインタビューを受け、「鳥取には勢いがあり、家族一同で応援に来られていて微笑ましい」と答えました。

総合開会式当日は一日中大雨で、ずぶぬれとなり大変でしたが、真心のこもったおもてなしをいただき、盛況のうちに終えました。敬意とともに心から御礼を申し上げます。

帰福後も仲間たちと練習に励み、長いラリーが続くようになりました。打ち方が苦手な人も、成果が目に見えて分かるほど上達しています。

今後の私たちの目標は、体育館での練習や実際の指導の場を見ていただき、興味・関心のある方にはどんどん参加していただき、世代間交流も積極的にしていきたいということです。鳥取県の方には機会があったら今後をご指導をお願いしたいです。

先日、スタンプラリーの当選商品(鳥取名産)が届きました。とっとり大会からの素晴らしい贈り物でした。仲間たちと奮闘し駆けずりまわった甲斐があったと、これもまた思い出です。本当にありがとうございます。



バウンスポールの普及・指導に努める仲間と結成したチーム。(右端)



水 泳

平泳ぎ 50m、自由形 50m、混合メドレー、
混合フリーリレー 福井県（選手）

やまうち ゆきえ

山内 幸枝さん 67歳 ●参加歴：1回目

初めて味わった感動と出会い、健康の大切さ

還暦を過ぎてねんりんピックに出られるとは夢にも思っていませんでした。

開会式は雨に見舞われちょっと残念でしたが、役員の方々が盛り上げようと頑張っている姿に感謝でした。また、今まで見たこともないようなバスの台数の多さにも驚きました。

ねんりんピックとっとり大会の水泳競技は、米子市の鳥取県営東山水泳場で開催されました。

さあ、いよいよです。皆気合いが入って、プールに次々と飛び込み、まるでメダカが水槽の中をぐるぐる回って泳いでいるような光景です。その大きな渦の中に自分も入り、仲間になっていました。

緊張のなか、試合開始です。タイムを重視する人や、出場することに意義ありの人など、各選手の目標はいろいろです。眼はキラキラです。リレー競技に入るとますます大きく声援も飛びます。1位でもビリでも、会場の温かな拍手で終わりました。

みんながスッキリした顔です。何回か出場されている方は、何年かに一度の再会を懐かしみ、笑顔のなかにも関志を秘めて会話をされていました。

私のような初出場の者は、新しい出会いと、味わったこともないような雰囲気と感動を得ることができました。人それぞれの感じ方があるとは思いますが、出

場できるチャンスがあるのなら、チャレンジすることが自分の変化のきっかけになるかもしれません。

70、80、90歳台の選手の若々しく元気な姿を見て、人生は長く、楽しいことってまだまだあるなど、健康の大切さを実感した大会でした。

兵庫県、鳥取県、島根県と3県をまたいで宿泊し、大会が終わり、ふと、遠いところまで来たなと思いました。慌ただしく短い滞在時間でしたが、浜坂温泉でゆったりし、バスの中から大山を眺め、松江城下の水燈路の風情ある光のアートを楽しみ、鳥取砂丘の雄大な自然に触れることができました。

観光マップを見ながら、短い観光も経験でき、よかったなと思いながら、感謝とともに、私のねんりんピックとっとり大会が終わりました。



雄大な大山のパネルを前に全員集合、気合いも十分。(中央)



ソフトボール 各務原フレンズシニア（監督兼選手）

きむら しずお

木村 静男さん 76歳 ●参加歴：5回目

「生涯現役・生涯青春・生涯感動」をモットーに

知人の紹介で本格的にソフトボールを始めたのは平成2年42歳のとき。チームは結成3年目でした。壮年、実年、シニアの各クラスで数多くの全国大会に参加しました。ねんりんピックは今年のとっとり大会で5回目の参加となります。

岐阜県選手団147名は10月18日に名古屋から姫路まで新幹線で移動し、姫路市内で前泊をしました。新幹線内では他競技の方々とお話しをすることができました。これもねんりんピックの楽しみの一つです。その日は、夕焼けに映える姫路城を散策し、ホテル近くの居酒屋で仲間と一献を交え盛り上がりました。

19日の総合開会式はあいにくの雨。国体のメインスタジアムとして使われたヤマタスポーツパークで地元鳥取県の方々のアトラクションを見ることができずにとっても残念でしたが、体育館で規模を縮小して開催された総合開会式を競技場の大型スクリーンで観覧し、楽しむことができました。

19日からの宿泊は、大山登山口にある3代続いた旅館で、我々のチームが貸切で使わせていただきました。夕食は、地元食材が使われた食事で大変おいしく満足しました。

翌朝、同室メンバーから「監督のイビキがすごい」と言われ、試合に影響しないかと心配しましたが、1回戦は強敵の山梨県相手に我がチームの4番バッター本谷君の1打が、打った瞬間に手応え十分なフェンス越えのホームラン、そこからの完封勝利！その日は宿に戻る途中にフラワーパーク・とっ

とり花回廊に立ち寄り、優雅にそびえる大山に感動しました。

21日の2回戦は鹿児島県と対戦。次のベスト8をかけた和歌山県との3回戦は、途中5対0とリードされ敗戦も頭をよぎりましたが、昨日に引き続き本谷君のホームランで勢いづき、同点抽選勝ち。地元の高校生の応援も力になりました。

試合終了後の帰り際、関係者の方から「来年は岐阜ですね、頑張ってください」と声をかけていただきました。バスで発つ私たちを、皆さんが最後まで笑顔で見送ってくださったことに感謝しています。

22日は鳥取砂丘に立ち寄りました。そこには、ねんりんピックに参加した多くの方が訪れていました。皆さんが元気よく歩いている姿は、とても若く見えました。チームのモットーである“生涯現役・生涯青春・生涯感動”をこれからも継続していきたいとますます感じました。最後に、大会の準備ならびに運営に携われたすべての皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



チームワークと応援を力にベスト8を勝ち取った。(後列右端)



バウンズボール 掛川バウンズボール（選手代表）

おおかわ ひさひろ

大川 久博さん 81歳 ●参加歴：1回目

経験わずか半年で目標のベスト8を達成！

2024年3月2日、静岡県で初めて開催されるという鳥取県発祥のバウンズボール講習会に、日頃からスポーツ（4人制バレーボール・フーバ）を楽しんでいる仲間4人と掛川から参加。基本ルールや特徴である平手ボール打ち練習、競技の楽しみ方などを教わり、最後に参加者全員で試合を行うことになりました。結果は、まさかの1位！それによりバウンズボール静岡県代表として、ねんりんピック鳥取大会に参加できる栄誉を得ることができました。

青天の霹靂とはこのことか。掛川に戻って早速、練習パートナーを編成し、4月から練習開始。10月の大会まで残り半年の間、月1～2回の練習を行い、鳥取県バウンズボール協会に何度か問い合わせ、ルールについて確認し、また助言をいただきながらレベルアップを目指しました。9月には静岡県すこやか長寿祭バウンズボール大会が開催され、ねんりんピックに参加する静岡市、浜松市チームなどとの接戦を制し、ここでも優勝！本大会ではまず予選通過を第一目標にすることをチーム全員で確認し、いよいよ鳥取に出発です。

総合開会式は残念ながら荒天による会場変更で参加することは叶いませんでしたが、バウンズボール会場がある倉吉市で盛大な合同開始式が催され、ねんりんピックに参加することの喜び、感動を新たにし、いよいよ明日のバウンズボール交流大会へと気分が高揚しました。宿泊ホテルでの夕食時には福岡のチームと交流を図ることもで

き、お互い健闘を誓い合いました。

そして迎えた当日。我がチームは予選リンク戦で山口県、高知県チームと対戦し、緊張しながらも声を掛け合い、ボールに食らいつき、粘り、2勝することができました。予選突破、ベスト8の目標達成を確認した瞬間、皆でコート上でハイタッチ。夢の決勝トーナメント進出です。

しかしながら、ここからは、経験わずか半年のチームと“百戦錬磨”のチームとではすべての面で歴然たる差が出ました。準々決勝で島根県チームに0-2で敗戦も、決勝トーナメント進出8チームの中で唯一の男女混合チームで、最終結果は第7位と大健闘。自慢できる成績を獲得することができたのです。

今後の人生の大きな励み、生きがいとなりました。これからもいろいろ新しいことにチャレンジし、健康で幸せな日々を送りたいと思います。



経験わずか半年の男女混合チームが優秀賞を受賞！「これからも新しいことにチャレンジしたい」と決意を新たに。（左から2番目）



eスポーツ 静岡県eスポーツ（選手代表）

きたがわ かつみ

北川 勝美さん

66歳

●参加歴：1回目

eスポーツで一念発起「私でもできるんだ！」

初の正式種目に決まったeスポーツ。ねんりんピックでは曲に合わせて太鼓を叩くリズムゲームが採用されました。試合は3人1組。各自1曲を演奏して、3曲の合計得点で勝敗が決定します。

友だちに誘われ、島田市の広報が募集していたeスポーツ体験会。そこで見た「ねんりんピック開催県は鳥取県」のチラシ。すべてが初めてで、興味津々。「鳥取行っちゃう？」と、友だちと意気投合。ただ、日中は仕事をしていて練習する時間がない。道具を買って家でやるしかない！それから毎夜練習を重ね、その甲斐あって友だちと2人そろって静岡県代表として出場することができました。

そして迎えたねんりんピック総合開会式。本来は、色とりどりのユニフォームに身を包んだ選手がグラウンドを行進しながら観客席に向かって帽子を振る……想像しただけでワクワクしていました。しかし、当日は荒天のため会場は体

育館に変更となり、規模も縮小されたため参加できなくなってしまいました。バスの中から見た会場の周辺には、歓迎のアーチやのぼり旗、たくさんの方々が並び、合羽を着た交通整理の方々や多くのボランティアさんがいて……大変な思いで準備してくれていた皆さんに感謝です。

静岡を出発して3日目、いよいよ境港市で予選リーグです。「僕、静岡の応援に来ました！」と2日間応援してくれたのは、出身が静岡県という学生さん。頼もしい！決勝トーナメントに進むには5チームの中で1位通過が条件です。課題曲が発表されると誰がどの曲なら高得点が取れそうかと、最後の作戦会議です。選手・応援者・関係者で大変にぎわうなか、慎重に！落ち着いて！と戒めながら太鼓に向かったのを覚えています。最後の試合で奇跡と思える高得点が取れて勝利し、決勝トーナメント進出決定。

迎えた最終日。気持ちは楽になったのですが完敗。対戦相手の愛知県は強かった！完璧なパフォーマンスにあっはれです。ただただ自己流で練習し、3人で集まったのは1度だけという私たちとは意気込みも環境も違いました。結果は5位タイです。優秀賞のメダルもいただき、

とてもいい記念になりました。

最後に、大会参加にあたりお世話になりました関係者の皆様、期間中、ともに過ごしたチームの皆様にご心より感謝申し上げます。



ねんりんピック初参加で決勝トーナメントの大舞台に。
(左から2番目)



落ち着いてプレイすることに専念して
予選リーグを突破。



eスポーツ

あいちドンドコ（選手代表）

みずかみ みほ

水上 美保さん

59歳

●参加歴：1回目

初めの一步がとんでもない経験に？

ねんりんピックの正式種目として初採用されたeスポーツ。縁あって愛知県予選大会に参加し、偶然上位に入り代表選手となりました。予選に参加した他の選手たちは情熱があり、若輩の自分は仕事も多忙だったため辞退するつもりでした。ですが、ねんりんピックってどんな大会？チームで競う太鼓の達人ってスポーツっぽいな、全国のシニアのeスポーツのレベルも知りたいな、と好奇心に後押しされて出場を決めました。

今回の大会のゲームタイトルは「太鼓の達人 ドンダフルフェスティバル」。太鼓のバチを使って、リズムに従って流れてくる太鼓のマークを叩くというシンプルなもの。タイミングによって「良」「可」「不可」が表示され、良を量産すると高得点。3人のチーム編成で、全員の合計得点を対戦チームと競います。予選は8組に分かれてのリーグ戦。各組のトップが決勝戦に進み、8チームによるシングルエリミネーションのトーナメントとなります。

さて我らが「あいちドンドコ」ですが、大府市のセンターでeスポーツを楽しんでいる川井さんと稲屋さんのおふたりと豊橋市の私を合わせた3人のチーム。9月の合同練習で初めてお

会いしたにも関わらず意気投合。明るくて頑張り屋のおふたりは猛練習を重ねており、高得点を連発。100万点を満点とした場合、95万点出れば十分かなと思っていた私は猛反省。おふたりは満点を目指していて98万点台など当たり前だったのです。

さあ、いざ鳥取県境港市へ。各チームの代表とお話をしたところ、皆さん満点を目指して練習しておられ、レベルの高さと向上心に驚愕しました。そんななか、あいちドンドコは初代チャンピオンという栄誉をいただきました。愛知の応援団にも支えられ感動的な瞬間を共有できました。優勝は光栄なことですが、全国のシニアの皆さんとお話ができたとや今後交流したいねと活動の範囲が広がる機会を得たことが収穫です。

そして、日常にはない独特の緊張感のなか、勝ち負けに仲間と一喜一憂するエモーショナルな体験。好奇心で踏み出した一步がこんな素敵な経験をもたらしてくれるとは驚きです。

最後に、素晴らしい運営をいただいた境港市の皆様にも御礼を申し上げます。



チームで全力で戦った決勝の舞台。



eスポーツの初代チャンピオンとなって満面の笑み。(中央)



太極拳 安濃津 SAKURA (選手)

たかぎ ゆりこ

高木 由理子さん 66歳 ● 参加歴：1 回目

得難い経験は、その後の指導や自己研鑽の道標に

ねんりんピックとっとり大会が、初めての鳥取県訪問でした。

大会の2年ほど前に所属団体の県選考会への参加の話が出たとき、迷わずメンバー入りを決めました。経験ある先輩方からその意義を何度も伺っていたからです。

普段は公民館での初心者指導、所属団体の教室やレベルアップ講習会、県連盟の講習会に参加しています。そこに、2023年7月からねんりんピックの練習が加わりました。スタートが遅いうえに、10月の県選考会までわずか3カ月です。オリジナル套路をたたき込む格闘の日々でした。無事に出場は決まりましたが、本番までは無我夢中の1年となったのです。

動線から套路を組み替えて並び順を変更し、音合わせにも四苦八苦でした。メンバー間での意見のくい違い、音の取り損ねなどで監督の指導に答えられないまま残り2カ月となりました。自信はなく、不安でした。

ところが、9月に入ると他のメンバーの動きが、霧が晴れるように視界に入り始め、動きが揃ってきたのです。体が反応する、といった不思議な感覚でした。

ねんりんピック総合開会式当日は土砂降り、屋内開会式に急遽変更となり、現地は対応に苦慮していたようです。前泊地から長時間のバスに揺られ、雨のなか、重い荷物を携えての移動は大変でした。それでも、雨の合間に屋内開会式の映像を見たり、販売コーナーを巡ったりして楽しみました。

翌日は交流大会本番です。前日のコートの立ち位置確認や直前練習の案内・誘導など、スタッ

フの方々には実によくしていただきました。表演は、ほど良い緊張のなか普段どおり演武しているうちに、あっけなく終わりました。結果は平凡な点でしたが、充実していました。インタビューでは、メンバーが皆、晴れ晴れとしていたのが印象に残っています。会場外のイベントコーナーでは足湯に浸かり、疲れが吹き飛んだ気がしました。

授賞式では最高齢の参加者を知り、感嘆の思いでした。また全国規模の大会のレベルの高さも実感しました。こうした経験は、その後の指導や自己研鑽の大きな道標となっています。

どの会場も素晴らしく、立派な施設だったうえ、関係者のサポートや観客の応援も大きな支えでした。体調を崩すメンバーもおらず観光も楽しめて、貴重な体験や思い出ができました。関係各位には心より厚く御礼申し上げます。また、監督やチームの皆さんにも感謝の気持ちを贈ります。



表演後の高揚感と安心感で笑顔あふれる記念撮影。
(後列左から2番目)



サッカー 伊賀フットボールクラブシニア (監督兼選手)

てらしま てつし

寺嶋 哲司 さん 64歳 ●参加歴：1回目

仲間とともに、より高みを目指す決意を新たに

待ちに待ったねんりんピック。出場に向けて、時間をやりくりして練習してきたものの、さすがに全国のレベルは高く、最終戦では疲労がピークに。足を痛め交代を叫ぶ選手が続出。ピッチに11人立つのがやっとでした。シニアサッカーは、一旦交代して退いても何度でもピッチに戻れるため、疲れたら交代して10分程度休憩したら再入場。満身創痍のメンバーながらも何とか協力して試合を終えることができました。結果は、Cブロック3位(1勝2敗)でした。

試合終了時は、全身に疲労と痛みがのしかかってきましたが、やり切った満足感でいっぱいでした。審判団に感謝し、相手チームをリスペクトし、チーム内ではお互いの健闘を称え合い、幸せな時間を過ごすことができました。

私は学生の頃、ずっとサッカーを楽しんできました。さらに、長年、中学生のサッカー指導にも携わってきましたが、年齢とともにサッカーから遠ざかっていました。そんななかで、「60歳の定年退職を機に、若い頃のようにもう一度サッカーをやりたい」と、以前から退職後の生活を思い描いていました。

退職後、地元のシニアチームに加入し、毎週のナイター練習、県内のシニアリーグ戦など、たくさんの試合や練習に参加させていただきました。当初は身体が慣れず、筋断裂、腰痛、靭帯損傷などで通院し、練習ができない状況もありましたが、日々、体のメンテナンスを丁寧に続けた結果、現在はけがをしない体になりました。「もっと上手になりたい」「どうすれば良いプレイができるのか」。探求心は膨らむばかりです。

5年目の今年、2度の全国大会に出場する機会をいただきました。6月に秋田県で開催されたJFA第24回全日本O-60サッカー大会、そして、10月の鳥取県での本大会です。他チームの方を見ていると、自分ももっと頑張りたいと強い刺激をもらいました。

大会開催にあたりスムーズな運営、地元特産品のかに汁、鳥取梨などのふるまい、応援旗で私たち三重県チームを応援してくれた鳥取市立美保南小学校の児童の皆さんなど、関係するすべての人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

本大会を通じ、「年齢は関係なく、生涯現役として仕事もスポーツもより高みを目指して、仲間とともに楽しみながら進んでいきたい」と決意を新たにしました。

して仕事もスポーツもより高みを目指して、仲間とともに楽しみながら進んでいきたい」と決意を新たにしました。



第一試合を前に記念撮影。チーム全員で試合に臨む。(前列左端)



美保南小学校の児童が作ってくれた応援旗に感謝を込めて。